



在京古高同窓会会報 第39号

〒113-0034 東京都文京区湯島3-20-9-707 佐藤清勝税理士事務所内 在京古高同窓会事務局 (03) 5818-2673 FAX (03) 5818-2674 URL http://www.1tctn.ne.jp/~furuko Email zaikyo-furuko@mx5.tctn.ne.jp 発行責任: 曾根 研一 編集長: 亀井 明 印刷: (株)ケーヨー

古高 頑張れ 会長 高橋 俊裕



皆様お元気で過ごすごしでしょうか。会長に就任して一年が過ぎようとしています。

昨年度の総会、一月の古川四校同窓会、会報の発行、会員の消息管理等々、現在の役員の方々の熱心な奉仕活動なしでは、この会の維持が出来ないことを痛切に感じました。無私、無欲の精神に支えられた活動には感銘すら覚えた次第です。

私事ではありますが、この三月末をもって日本郵政公社副総裁を退任いたしました。これを期にもう少し同窓会活動にも力を入れようと思っております。

さて、去る三月一日母校の卒業式に参列させていただきました。四十九年振りの母校訪問でありました。所在地は変わらないものの、建物や学生の服装など昔の面影を残しているものを探すのは無理でありました。

男子校最後の卒業式も、私にとっては驚きでありました。名前を

呼ばれても返事をしない者、奇声を発する者等々。時代の差を痛感するとともに、「教育」について考えさせられた一時でありました。

白川静氏の辞書によれば、「教」の字は交(こう)と子と支(ほく)の組合せ。交は神聖な建物、子はそので学ぶ学生、支は鞭のこと。学舎で学ぶ子弟たちを長老たちが鞭を打って励ます意味だそうです。それでも校歌・応援歌の斉唱の中に私の知る古高を思い起こし、東京蜜雪賞受賞者との会話に清々しい青年を見出し、幾ばくかの安堵を覚えて、母校を後にしました。

山本校長先生の話では、来年度からは学区制の撤廃で、仙台一極集中が懸念されるとのこと。我々も伝統ある母校の灯を消すことのないよう応援をしていきたいと思っています。

具体策はなかなか見出せませんが、まずは我々から高校に色々発信していくことが大切だと思います。その為にも会員の増加、会の更なる活性化を心掛けて参りたいと思う次第です。

皆様のより積極的なご協力・ご助言を期待しております。

前号の「年頭のご挨拶」で「校長小埜 洋先生」とあるのは、「校長小埜 洋先生」の誤りでした。お詫びして訂正します。

進化する古高

古川高等学校長 山本 照夫



在京古高同窓会の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

三月一日の卒業式には、会長の高橋俊裕様、副会長の曾根研一様にご出席頂き、東京蜜雪賞の授与とご挨拶を高橋会長より頂きました。有難うございました。

この四月から全学年が共学となり、古高の新しい出発となります。全校生徒七百二十名中女子生徒二百八十二名で四割です。来年三月には古高初の女子卒業生が誕生し、同窓生、大学生となります。地域と時代の要請に応じて、発展し進化する古高でありたいと考えています。

この三月に卒業した男子学年最後の生徒諸君も大学受験で頑張りました。現役での国公立大合格数は昨年の七十名とほぼ同じ六十八名で、もう少しで生徒三人に一人の現役国公立大合格です。内容も、東北四大、北大二、久し

在京同窓会メモ

- ・会計年度は4-3月、年会費は一口2,000円です。
・会の健全運営のため、振替用紙が同封された方には、納入をお願い致します。
・次回会報第40号は2008年1月1日発行予定、原稿は常時受付。

- 1面 挨拶
2面 本部同窓会だより
3面 東京蜜雪賞
4面 四校合同新年会報告
5面 自由投稿
6面 同期会報告
7面 年会費納入名簿
8面 会員通信

ぶりの医学部一、東京芸大音楽一など良いものでした。私立大でも、早稲田大五、中央大、明治大、理科大五など良いものでした。

明治三十年四月一日創立の本校は、今年度創立百十一年目です。創立百十周年を記念して、十一月二日に記念式典を行い、併せて記念講演を高校二十四回生で東北大学医学部第二内科教授の伊藤真嘉氏に依頼しています。

仙台一高に次いで、普通高校として二番目に古い歴史と伝統を持つ古高です。

進化する古高(古高EVOLUTION)を生徒に訴えています。大崎の中心校として復活して来た古高を、男女共学の完成、創立百十周年を契機に、更に進化させたことの願いからです。

また、品位と誇りと志ある古高生を訴えています。バンカラ古高を想う先輩諸氏も多いと思います。が、男女共学など時代は変化し、進展しています。その中でも、部活動で自分を磨き、仲間作りをし、勉強する「文武両道」の精神は今も昔も同じです。

骨太の生徒を育成し、進化する古高であるよう、教職員一同努力しているところです。

在京同窓会の皆様には、母校を暖かく見守って頂きますと共に、変わらぬご支援ご厚情をお願い申し上げます。

平成19年度 在京古高同窓会定時総会・懇親会

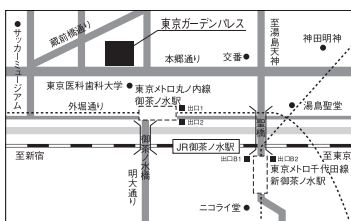
【日時】平成19年6月23日(土) 11:30~15:00

【会場】東京ガーデンパレス (これまでの「神楽坂エミール」が閉鎖になったことにより、会場が変更になりました。)

【会費】8,000円

【講演】伊藤 康志氏(大崎市長) 演題: 「大崎市の昨日・今日」

【交通案内】



【講演講師】

伊藤康志氏 プロフィール

古川出身、昭和43年 小牛田農林高校卒業、昭和62年 宮城県議会議員初当選、平成17年 第33代 宮城県議会議長就任、平成18年 初代大崎市長就任。



お知らせ

東京ガーデンパレス 〒113-0034 東京都文京区湯島1-7-5 TEL 03-3813-6211

・JR中央線 御茶ノ水駅下車 (聖橋口より 徒歩5分)
・東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅下車 (徒歩5分)

・東京メトロ丸の内線 御茶ノ水駅下車 (徒歩5分)

本部同窓会事務局だより

立てよ

いざ立て わが友よ

古川高校同窓会

会長 渡邊 義之



各地で桜の開花が伝えられ、こ大崎耕土にも花爛漫の春がまいりましたが、在京同窓生の皆様方におかれましては、益々ご清栄のことと心からお慶び申し上げます。

在京同窓会が高橋会長さんを中心として素晴らしい活動をされており、また母校発展の為、常日頃多大なるご貢献、ご支援を賜っておりますこと衷心より感謝申し上げます。

三月一日に挙行されました母校卒業式には、高橋会長さんと曾根副会長さんが、ご多用のところ、また遠路わざわざご臨席を頂き、「東京蛍雪章」の授与と卒業生への励ましの祝辞を賜り、卒業生はもとより、在校生諸君にも大きな感銘を与えました。

また、今年の卒業式から在仙同窓会からも、学力等優秀な卒業生に対し、「仙台蛍雪章」が授与されるようになりましたことは、実に喜びに耐えず、在仙同窓会の活動の活性化と相俟って大変心強く

思っております。

さて、既に皆様ご承知の通り、昨年の夏の同窓会総会で、同窓生からも年会費の納入をお願いすることになった訳ですが、この総会后、開催された全ての支部総会でもその趣旨をご説明申し上げ、各支部の方々から全面的な賛同を頂きました。

このことを受けて、今年の夏の総会で会則の改正を経て、平成二十年から会費を納入していただく運びになろうかと思っておりますので、在京同窓生におかれましては、何かと出費多端の折、誠に恐縮ではございますが、何卒ご理解・ご協力くださいますようお願い致します。

次に、母校は今年で創立百周年と同時に男女共学の完成年という記念すべき年を迎えました。来る十一月二日(金)には、ささやかながらも古高らしい創立記念の式を学校も計画しておりますが、同窓会としてもなにかしかなのお手伝いが出来ればと考えております。その時はよろしくご高配を賜りますようお願い致します。

また、この創立百周年を一つの契機として、母校の教職員も山本校長先生を筆頭に全員一丸となつていにしえの名門古川高校の再生・復活にむけ、全力を傾注し、弛むことなき教育指導にあたっておられ、その成果が徐々に形として現れております。

文頭に掲げた文言は、同窓生ならば誰でも知っている応援歌の一節であります。母校が再生・復活にむけて必死の努力をしている今こそ、「立てよ、いざ立て、我が友よ」の文言を合言葉として、同窓

生諸氏のお力添を賜りながら、逞しい蛍雪健児の育成と母校の発展の為、共に努めてまいりたいと思っておりますので、何卒よろしくご協力・ご指導をお願い申し上げます。

終わりに、在京同窓会が、今後益々ご発展されますことと、併せてお一人お一人のご活躍を心からご祈念申し上げます。

近況報告

事務局長 大山 義男



本年一〇周年を迎えた古川高校は、新たに入学生二四〇名(内女子九九名)を迎え、男女共学完成年度となりました。新たな歴史のスタートを踏み出した本年、初めての出来事が三つありました。

まず初めに、入学式での新入生代表が女子であったこと。次に、対面式での代表挨拶も女子であったことです。そして、三つめに、本年度本校同窓会奨学生として、全学年ともに女子が選ばれたことでした。

つまりは、成績優秀者としての女子の活躍に目覚ましいものがあった証です。このことは、今後の古高での女子の活躍を示すものだと思います。さて、古川高校は平成十八年度

にテニスコートの新設が完了、新たにクラブハウスが新体育館脇に新設され、旧部室棟(線路脇のブロッコ造り)が解体されました。

これで新生古川高校のハード面の改革はほぼ終了したことになります。今後は内面の改革に力を入れるべく、本年度からは今までの校訓に加え、校長先生の提案で、学校スローガンが新設されました。それは「古高エポリューション」(古高の進化)です。このスローガンの下、保護者や地域からの期待にこたえる大崎の拠点進学校にふさわしい、品位と誇りと志ある古高生の育成を目指します。

入学式後に定期戦に向けて始まった恒例の応援練習も、三学年ともに女子が揃い、しっかりと先輩から後輩へ伝統が引き継がれておりました。また、学校行事や部活動でも、着実に女子の活躍が見られるようになり、今年こそ県下に古高女子部の名が鳴り響くのも間違い無いでしょう。

さて、今年度の築高定期戦は、昨年度の雪辱を果たすべく、全校一丸となって取り組み、八勝六敗という見事な勝利を勝ち取りました。

今年度は残念ながらソフトテニス、バドミントンが大会と重なり不参加でしたが、今まで負け通しであった柔道が六年ぶりに勝利を飾る健闘が見られた他、女子競技初の勝利を勝ち得た女子バレーの活躍も見られました。それに続いて、男子バスケット、ハンド、ラゲビー、サッカー、男子バレー、綱引き(男子)が勝利を飾りました。(通算三三勝十二敗三分け)

さて、今春の卒業生の進路状況

は昨年にも増し、素晴らしい成果を挙げることができました。昨年度の国公立進学現役七〇名に僅かに及ばなかったものの、今年度の厳しいセンター試験の下、六八名(内 東北大学四名)の国公立大学合格者を出しました。

中でも、十二年ぶりになりますのが、現役国公立大学医学部合格(福島県立医大)や東京芸術大学合格(五名)などが目立ちました。これらは、目標を持って努力し続けた結果の賜ではないでしょうか。

国公立大進学者の上位は山形大十六名、岩手大、福島大六名、岩手県立大五名、東北大、高崎経済大四名と続きます。また、私立大学に於いても地元東北学院大に一〇二名の大量合格者を輩出、日本大学十五名、東北福祉大学五名など、めざましい成果が見られました。

同窓会運営に関しましては、今年度も多くの課題があります。まず、第一に昨年度から懸案でした会費納入の問題があります。これに関しては、昨年各支部の同意も得られ、今年度の総会にて規約改正をして、同窓生の皆様から年会費を頂く方針で検討して参ります。

会費の金額や、会報の發送など様々な検討課題もありますが、まずは総会にて皆様のご意見を頂戴しながら、改革に努めて参りたいと思っております。

更に、今後の総会の参加者増加を目指す運営方法など、工夫して参りたいと思っておりますので、今後とも本校同窓会活動にご協力ご支援の程よろしくお願い申し上げます。





第十四回 旧古川市内四校新年の集い 大崎市誕生により「旧古川市」となる

今年十四回目を迎えた旧古川市内四校新年の集いが、平成十九年一月十三日(土)に例年のとおり上野精養軒で開催されました。

会場都合により、昨年に続いて一月上旬の開催となったことで、案内状の送付や出席者の確認などの作業で、各校ともに幹事役の方々にとっては、大変な年末年始となつてしまい本当に御苦勞様でした。

今年の幹事校は古川工業高校の担当で昨年関東同窓会長になられた佐藤喬氏の挨拶が始まりました。古高からは、初めて出席の山本照夫校長がお元気に出席されました。順次各校長、各同窓会長の挨拶と紹介があり、来賓として伊藤信太郎衆議院議員と新大崎市長として初めての伊藤康志氏から御挨拶をいただきました。

伊藤市長は、県議会議員五期と議長を歴任されただけあって、弁説は軽快な中にも迫力に富み、中でも新大崎市には

日本一が三つあって、それらは市の宝として大いに活用したいという辺りは、宮崎県知事と似たよ



伊藤信太郎衆議院議員



熱演する古川工業高校吹奏楽部

さて、今年の新年の集いの圧巻は、幹事校古川工業の吹奏楽部が、平成十八年度全日本吹奏楽コンクール宮城県大会の小編成の部で金賞を受賞したことを記念して、ぜひ関東の皆さんに聴いていただきたいとの要望がありました。



伊藤康志大崎市長

- うな面を感じさせました。
一 鳴子温泉の源泉数 三九六
二 旧鳴子町の湯沼の酸性度 泉質 九種類
三 旧田尻町蕪栗沼に飛来する 雁 七八〇〇羽
というものであります。

古川から大勢で楽器もあり、遠路のリスクや経費負担などを考えると大変なことであります。

しかし、古川工業高校としては、それらの困難を乗り越えて固い決意のもとに実現されたのです。一行十七名、朝四時に古川を発つて、会場に着いたのは開会少し前でした。しかし若い高校生達は遠路の疲れもみせず見事でした。

何曲かのアンコールにも応えて、指揮の松本尚樹先生の指導のもと、ふるさとの力を感じさせるものがあ、全員心から感動を覚えた一時でした。

二部に入ってから、幹事団を代表して在京古高同窓会の高橋俊裕会長の挨拶から始まり、各年次別テーブルに集まったの思い思いの話題に花を咲かせ、久しぶりに会う先輩後輩の近況を確かめながら、大いに食べ、大いに飲んだ時間もあつという間に過ぎたようであります。

次に今年の出席者数であります。古高九三名、黎明八〇名、古工五〇名、学園三八名、合計二四八名であります。古高関係は下記に掲げる方々であります。

全体として横ばいであり、若いが、一様に気になります。若くは人達の動向であります。継続は力なりといいますが、同窓会にも力が必要であります。力を維持するために同窓会を継続する努力が必要であります。

同窓会はふるさとと若い力があつての会であり、ことを痛感いたしました。

(文責 春田)

＜ 第14回四校合同新年会 古高出席者名簿 ＞

〔古高来賓〕 山本 照夫(学校長 新潟県出身) 渡邊 義之(同窓会長 S34卒 東大崎出身) 高橋 勝夫(在仙会長 S23卒 田尻出身) 佐藤 正幸(関西雪会会長 S39卒 清滝出身) 高橋 亨(同窓会副会長 S23卒 古川出身) 長井 弘策(同窓会副会長 S31卒 古川出身)

〔四高来賓〕 伊藤信太郎(衆議院議員) 伊藤 康志(大崎市長) 狩野 壽一(古川商工会議所会頭) 伊藤 長市(東京古川会会長)

〔会員87名〕 ( ) → 出身地

- 昭19 青沼 康男(荒 雄) 昭27 氏家 明朗(岩山山) 昭29 高橋 退(中新田) 昭30 佐藤 寿哉(高 倉) 昭33 佐藤 満行(大 衛) 昭36 菅野 俊次(古 川) 昭41 菊地 務(古 川)
昭20 安部善次郎(古 川) 昭28 氏家 明朗(岩山山) 昭29 高橋 退(中新田) 昭30 佐藤 寿哉(高 倉) 昭33 佐藤 満行(大 衛) 昭36 菅野 俊次(古 川) 昭41 菊地 務(古 川)
昭21 高橋 昭典(古 川) 昭28 氏家 明朗(岩山山) 昭29 高橋 退(中新田) 昭30 佐藤 寿哉(高 倉) 昭33 佐藤 満行(大 衛) 昭36 菅野 俊次(古 川) 昭41 菊地 務(古 川)
(44回) 前田浩五朗(古 川) 昭28 氏家 明朗(岩山山) 昭29 高橋 退(中新田) 昭30 佐藤 寿哉(高 倉) 昭33 佐藤 満行(大 衛) 昭36 菅野 俊次(古 川) 昭41 菊地 務(古 川)
(45回) 横山 榮治(古 川) 昭28 氏家 明朗(岩山山) 昭29 高橋 退(中新田) 昭30 佐藤 寿哉(高 倉) 昭33 佐藤 満行(大 衛) 昭36 菅野 俊次(古 川) 昭41 菊地 務(古 川)
昭24 門脇 健(東大崎) 昭28 中川 裕雄(志 田) 昭29 高橋 退(中新田) 昭30 佐藤 寿哉(高 倉) 昭33 佐藤 満行(大 衛) 昭36 菅野 俊次(古 川) 昭41 菊地 務(古 川)
昭25 岩淵 弘(古 川) 昭28 中川 裕雄(志 田) 昭29 高橋 退(中新田) 昭30 佐藤 寿哉(高 倉) 昭33 佐藤 満行(大 衛) 昭36 菅野 俊次(古 川) 昭41 菊地 務(古 川)
昭26 遠藤 惇(鳴 瀬) 昭28 中川 裕雄(志 田) 昭29 高橋 退(中新田) 昭30 佐藤 寿哉(高 倉) 昭33 佐藤 満行(大 衛) 昭36 菅野 俊次(古 川) 昭41 菊地 務(古 川)
平 博明(鹿 島) 昭28 中川 裕雄(志 田) 昭29 高橋 退(中新田) 昭30 佐藤 寿哉(高 倉) 昭33 佐藤 満行(大 衛) 昭36 菅野 俊次(古 川) 昭41 菊地 務(古 川)
中澤 令是(田 尻) 昭28 中川 裕雄(志 田) 昭29 高橋 退(中新田) 昭30 佐藤 寿哉(高 倉) 昭33 佐藤 満行(大 衛) 昭36 菅野 俊次(古 川) 昭41 菊地 務(古 川)
角田 啓輔(古 川) 昭28 中川 裕雄(志 田) 昭29 高橋 退(中新田) 昭30 佐藤 寿哉(高 倉) 昭33 佐藤 満行(大 衛) 昭36 菅野 俊次(古 川) 昭41 菊地 務(古 川)
谷地森 税(古 川) 昭28 中川 裕雄(志 田) 昭29 高橋 退(中新田) 昭30 佐藤 寿哉(高 倉) 昭33 佐藤 満行(大 衛) 昭36 菅野 俊次(古 川) 昭41 菊地 務(古 川)

内科・小児科 長井内科 院長 医学博士 長井弘策 [昭和31年卒(高8回) 古川高校同窓会副会長] 〒989-6154 大崎市古川三日町1-3-25 TEL 0229(91)1020



趣味三昧 特定非営利活動法人 日本刀剣保存会 理事長 宮野貞司 S34年卒 〒142-0053 東京都品川区中延3-13-17 TEL・FAX 03-3782-5326



古高に学ぶ自由投稿

古中・古高の過去に  
こんな一面もあった

昭和26年卒 平 博明



久しぶりに四校合同新年会に出席した。会の内容は今号(四面)を参照していただくとして、旧友と共に過ごした過去の事などで賑わっていた。

旧友との会話等で時々耳にとびこんできた会話の一部に、この字は何と読むんだという声があった。それは受付で出席簿のチェック欄の場所に印刷されていた「篁嶽」なる二文字である。この二文字に最初に目にかかった人は「漢和辞典」にも出ていないので首をかじげた事だろう。読み方は「ののだけ」である。皆様の家族のなかには浦谷町または、その近くの方がおられれば素直に読まれるだろうが……

私が古高に進学する時には、どんな訳か篁嶽国民学校の卒業予定者は、古川地区か、石巻地区のどちらかの二地区の一方しか受験できなかった(理由不明)。そんなわけで篁嶽地区の卒業予定者は一、二名しか各学年存在しなかった。(その頃、浦谷高校は存在しなかったので古川地域か石巻地域のどちらかしか存在しなかった)

浦谷女学校は存在した。女学校は存在するのに、浦谷に男子の中学校はなかった。近くに男子系の中学校はなかった。

幸いにして何とか中学校への目途がついたが、前谷地駅を経由して古川↓小牛田と通学するのは正直の所、大変な努力が必要だった。今思うとよくも六年間(旧制中学校、最後は五年制が四年に短縮↓これが終戦となって三年間の旧制中学となり、昭和二〇年に入学の旧制中学校生徒は、結果的に六年間の中学校生活を卒業するまでに同じ屋根の下を経験することになった)

あまり知られていないのが、古中の最北端にあった木造校舎の一部が軍の臨時病棟となった事である。終戦と同時にいつの間にか看護婦を含めてどこかへ移動した。

あの病棟に療養していた人たちはどこへ移動していったのだろう。傷病兵のなかに、郭公の物真似の上手な人がいて、毎朝グラランドの東側の方で我々に聞かせてくれたが、そのことも遠い思い出となった。

終戦とともに進駐軍がやってきて、ブルドーザーで、グラランドの一部の手直しを始めた。またグラ

ンドの東側の部分に約1・5メートル位の深さの堀を掘って、そこに雨水がたまつてその中に落ちてびしょ濡れになる椿事件が起きた事もあった。あの堀は何のために掘ったのであろう。未だもって謎である。

何とかして古中に入学した私達であったが、前述の如く大変な苦労があった。篁嶽村から通学するのが一苦労、まず篁嶽村の一ヶ所に朝四時頃に集まり、集団を作り、約一里位を徒歩で歩き、家を出るのが寝坊して遅いときなどは走って石巻線前谷地駅が六時二十分発頃の列車に乗り、浦谷經由・小牛田乗り換え古川下車、学校の順で通学した。厳しかった。そして家族の者に色々迷惑をかけた。

そんなわけで先輩も多い(といっても三名ばかり)古川地域受験となった。その頃浦谷高校は未だ設置されていなかった。浦谷女学校は存在した。そんなわけで古中受験となった。

幸いにして何とか中学校への道は開けた。しかし、古川への通学が一苦労であった。それでも何とか頑張つて篁嶽から前谷地を。

今思うと、石巻地区を受験すればよかったのかなと思っている。その時は、我々の通学がかなり大変であることが評判になった。その実状を今までに三名の先生方が実地に把握された。どうもご苦労さまでした。この片道四〇分の一時間を経験された。ご苦労さまでした。

小牛田駅の四番線ホームの端から東南方面を見ると杉木立の集合

山岳体が見える。その集合体が篁嶽山の篁嶽観音を風雪から守っている観音さまの杉木立である。

篁嶽に行くには、浦谷町中心部から約一時間かかった。級友達は篁嶽組の通学方法を聞いて同情してくれたが、それ以上のことはなかったが、定期試験や中間試験のあるときに宿泊の提供や、ノート提供を申し出た級友がいたが、迷惑かけるので遠慮した。提供を申し出た級友の諸君に感謝する。

それらの繰り返しで何とか古川中学を卒業できた。そして現在の私達、篁嶽組が存在する。どうもありがとう。

終わりに篁嶽の遠嶽の山岳地を是非訪れてみて下さい。また篁嶽山に登山して、篁嶽山からの素晴らしい自然を眺め、愛してください。

“アウトソーシングを支援する”

パルスタッフ株式会社

厚生労働大臣認可・人材派遣業(般13-300435)

代表取締役 渡 邊 道 雄

S28年卒(鹿島台町)

本社 〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-4-7  
ロータリービル6F

TEL 03-5364-5251 FAX 03-3330-7585

東京営業部(03-5364-5251) 神奈川営業部(0462-77-0791)

E-mail: m.watanabe@palsbk.co.jp

日曜大工園芸用品卸 貸ビル、貸マンション業

株式会社 佐々木商事 代表取締役  
株式会社 アクアバンドジャパン 代表取締役副社長

佐々木 光一路(昭和33年卒)

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル  
-0035 第一京浜国道沿い京急蒲田駅前

電話 (3739) 2468  
FAX (3732) 7700

HOT Line 090-3202-6393

佐藤 啓三

(S40年卒 中新田)

中小企業診断士・ISO審査員・エネルギー管理士

ISO(品質・環境)・技術・経営  
コンサルティング・グループ  
株式会社 経営技術機構 所属

〒105 東京都港区虎ノ門5-3-20 仙石山アネックスビル1階  
-0001

TEL 03-5425-2491 FAX 03-5425-2492

自宅 〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19  
携帯 090-1438-9132 E-mail FZN04730@nifty.ne.jp

両国界隈散策と

ちゃんこ料理と

IIぎやろっば会II

昭24年卒 門脇 健

春うららの両国界隈を散策し、本場の「ちゃんこ(料理)」を食べよう——そんな思いで企画された第九回在京ぎやろっば会(古中四十八回・古高一回卒の集い)は、四月十日、好天に恵まれ十六名の参加をえて楽しく行われました。

十一時十五分、JR両国駅に集合「ぎやろっば会」のミニ幟を先頭に①相撲博物館に寄って、往年の名力士たちの写真や化粧回しを懐しく見て、②隣りの、隅田川の水位変動に応じて景観も変化する潮入回遊式の旧安田庭園を鑑賞し、③関東大震災の被害者の霊を祀る慰霊堂にて合掌、④回向院(えこういん)にて往古の勧進相撲に思いをはせつつ俗称鼠小僧の「教覚速善居士——俗名中村次良吉之墓」を訪ねて浄財を投げ、それぞれの思いで合掌、祈願?した次第。

少々、腹が減り、喉が渇いて来た十二時三十分頃「ちゃんこ巴湯」新館に全員集合し、鈴木大吉さんの乾杯で開宴。賑やかに飲んで食べて懇談しつつ、税理士である早坂揆男さんの十分間スピーチ「高年齢金者に係わる税務動向や相続税対策など」に耳を傾け、実務的な質疑が行われたほか、弁護士の高橋勝夫さん(在仙古高同窓会長)からは「そのような時は、貯金などさつさと降ろし、タンス貯金にし対処するのがいい方法だぞ」といったアドバイスなどもあって納得。

最後は校歌や応援歌を元気に合唱し、秋の再会を約して午後二時三十分、三浦澄能さんの中締めで「喜寿の春の集い」を散会。

なお、同期生である宮城女子大 学名誉教授の佐々木忠慧さん(在大崎市)から次のような興味あるコメントが寄せられましたので紹介します。



回向院の俗称鼠小僧の墓を囲んで=ぎやろっば会の一行

「回向院は明暦の振袖大火の無縁塚に開創されたことは有名ですが、その回向院に墓のある鼠小僧は二宮尊徳と今でいう同級生で、仲が良かったということです。ところが、彼等の生まれた神奈川県栢山(かやま)村(現小田原市)は酒匂川の氾濫のため壊滅したので、生きる方法を考えざるをえませんでした。尊徳は儒教によるケチの経済を實踐しましたが、鼠小僧は手つとり早く、富裕な武士から泥棒をし、貧民にあたえて義財と称されました」——とのことです。

昭和37年卒「37の会」を

秋保温泉で開催

II定年後二年生の母校愛と

鳴子へのエールII

昭37年卒 千坂 孝夫

インターナショナルビューマン トラベル社長中鉢泰平氏の音頭により、3月7、モトイ! 20日秋保温泉・緑水亭にて十三年ぶりに開催。参加者は二五名。(還暦時未開催)

母校はなつかしい存在か。正直、良くも悪くも全く目立つことのない帰郷組(正しくは新聞部所属ではあったが)、毎年のクラス替え、しかも自宅学習六時間を奨励され、どこでという風に友人を作れというのか。クラスにおいても目立つ存在ではなかった、凹!(六分の一の就職組に入った三年次には少々「め」が出た。就職先ではあったが、大学は出た。「人生において芽が出るのは学業後」ということであれば、(全く目立つ存在でなかったと振り返るのは)多くの同級生に共通することであろうと、今にしては思える。そんな高校生時代の同期会、語るに値する共通の思い出はあるか? 学校行事(築高戦、文化祭、運動会、一万余米M、北海道修学旅行等々)、五十番までの成績掲示に恩師のこと? 巣立って四五年、愛郷・愛校心は健在か?

ということはおさえておき、今や立派な?〇〇として、席をもてあますことも赤面することもあるまい。と即、出席回答。 ちようどお得意!の「青春18切

符」有効期間内故交通費は格段に安上がり(片道千六百円相当)。五時に上野を発てばお昼は仙台、昔の「急行松島」並み。ホテルまでの足はバス停からの送迎とHP。何と馬鹿な! JTBのパンフで平日のみ仙台発三時、を発見。即、予約(結果としての利用は小生ののみ)。宴会は六時半であったが、今は昔の高級H泊故早めにCI。

「お久しぶり」の挨拶もせずに、宿自慢の篝火の湯(固有名詞)に直行。風花が舞う。卒後四五年間の回顧。長湯の湯上りはお肌ヒリヒリ。宿独自はいいが、Na含み。中鉢氏に「宿到着が遅くなるので(それまで幹事役?)よろしく」との言をいただいていたが、幹事補佐を名乗るのもおこがましい(前回、イコイル十三年前不参加の身)。

六時半、春秋の間で開会。豪華な広間に二五人分のお膳がちんまんと四列に並んでいる。お向かいさん迄は一米もの距離。普段大声を出すことのない都会年金生活者には辛すぎ? 担当のお姐さんはいが、ビールの栓くらい自分で抜かせて!

早逝者に黙祷を捧げ、後乾杯。 こういう席での挨拶・近況報告は早いもの勝ち! 経るほどにどれだけの人が耳を傾けてくれるか。酔いと共に思い出す顔も(宮城なのに)大分。

頭の良かったまるまる複数人、運動部で活躍した彼(野球、バスケット、柔道、スキー)、文化部は音楽(合唱とマンドリン)に演劇。生徒会役員トリオは全滅。仙台・東京での成功組...アツという間の二時間。記念写真と共に

「フリーズ出世頭?」の話題になったが突出者はいなかった。頭髪の磨耗度は一番の指摘が! 翌朝は赤い「出会い橋」でお別れ撮影。

次回以降のために、地区毎に世話役を設けることとなった。結束がいいのは岩出山に鳴子、あとはぼちぼち。中新田、田尻、小牛田、松山、三本木等。エッ、古川が出てこない?

左様、旧市内(古中卒)は地元で多勢故、懐の念は希薄? 今は普通の体型薩日内、いつも譜面を携えていた鈴木勝治の両氏、あなた方はエライ!

仙台まで来てのお彼岸の中日とあれば、当然の菩提寺(荒雄に岩出山)墓参。仙台に戻って古高卒・CWV(中途)と同コース後輩と三八年ぶりの再会。スポーツ少年団の友人指導者訪問(同期後藤佑也氏は県副本部長。中学友人への達での願いで蕪栗沼と笹岳山初見。と、実り多い四日間であった。

家内の第一声「料理はどうでした?」確かに皿数は食べたが感想はなし。「口に入りきれない出会いと快い思い出」が残った。 ありがとう、ふるさと! 次回鳴子の声がなかったのは同じ大崎人となった今の身には少々さびしい?

Graphic with text: 挨拶は「グーテンターク」・「Prost!」(乾杯)・又会いましょう「ウィーターゼーエン」(我ら二次にドイツ語を学ぶ) ※連絡は「インターナショナルヒューマントラベル」まで 総会時再会期待!!



平成18年度会費納入状況一覧 (平成18年4月1日～平成19年3月31日)

同窓会活動の財源としての会費を、皆さまにご協力いただきありがとうございました。  
平成18年度の年会費を納入された方々のご芳名を記して、お礼に替えさせていただきます。  
本年4月1日以降に納入された方につきましては、平成19年度の会費として会計処理させていただいております。

卒年	氏名
昭3	佐々木全寿
昭7	杉下知兵衛
昭9	伊藤 守治
昭12	狩野 節夫
昭14	岩城 有信 佐藤 裕郎 中澤 廣
昭16	飯川 昌男 今野 栄喜 高橋 三郎 福島 光男
昭17	笹原 猛 穴戸 衛 高橋 栄
昭18	大家 吉夫 豊嶋 耘三 渡辺 三男
昭19	青沼 康男
昭20	安倍善次郎 青沼 瑞夫 熊谷 虎夫 後藤 雅久 佐々木属 高橋 昭典 高橋 寛 照井 重雄 日野 次朗 前田浩五郎
昭22	横山 榮治
昭22	大曾根良衛 大場 孝夫 鈴木 昌男 松本 慶蔵 諸岡 久男 結城 雅巳
昭23	佐藤 浩朗 鈴木 大吉 半田 慶男 遊佐 俊夫
昭24	我孫子静夫 門脇 健 狩野 俊吉 熊谷 文男 小林 昭 今野 敏 齋藤 馨 齋藤 弘 早坂 揆男 三浦 澄能
昭25	荒井 隆 伊藤 隆俊 岩淵 弘 及森善次郎 岸 勝也 工藤英三郎 鈴木一太郎 袖井林二郎 遠山 仁一 中川 精二
昭26	相沢 清記 生亀 弘 遠藤 惇 大場 廣 岡本 昭 佐々木国利 佐々木 惇 佐々木達夫 鈴木 桂吾 鈴木 俊男
昭26	角田 啓輔 中澤 令是 平 博明 森 富五郎 谷地森 税
昭27	相澤 清 跡部 太一 天野 仁二 石森 一造 岩淵 弘 氏家 明朗 遠藤 安郎 大場 恒明 大内 史彦 大内 健
昭27	太田 徹 木村 偉夫 佐澤 正剛 佐藤 清勝 齊藤林寿郎 菅井 一 田口 朝一 高橋喜三夫 種村 雄一 中森 高
昭27	春田 紘輔
昭28	内海 国夫 加藤 源治 金子 康 小元 広悦 佐々木修規 高橋 範志 中川 裕雄 中條 恒彦 早坂 明久 久光 栄
昭28	山田 四郎 渡邊 道雄
昭29	相沢 善徳 岩淵 瑞穂 尾梶 健寿 大沼 悟 小川 春男 近江 誠一 岡崎 博 金原 章郎 菊地 務 佐藤 郁郎
昭29	佐藤 興市 佐藤 茂 佐藤 廣 関 信良 関口 克巳 高橋 清亮 高橋 焔 高橋 勇悦 豊田 哲夫 中島 五郎
昭29	長浦 稠 野田 功次 早坂 清吉 福富 啓祐 三浦 憲一 八尋 恭平 湯本 良師
昭30	相原 相 浅野 和夫 岩城 光将 尾崎 光彦 門脇喜代志 門脇 敏明 岸 孝仙 岸 康男 木村 哲彌 京極 恒由
昭30	小松 伍郎 児玉 律実 佐々木英三 佐々木清七 佐々木 豊 佐藤 忠良 佐藤 輝久 佐藤 寿哉 佐藤 久 鈴木 貞清
昭30	諏訪 政志 菅原 利吉 瀬戸 順悦 曾根 研一 高橋 敏昭 高橋 廣 都築 侑 塚田 容三 中澤 丙伍 中村 惇
昭30	二階堂幸雄 平野 武 三浦昭五郎 師山 政夫 横山 武 和田 勝義 渡辺 吉郎
昭31	浅野 清 浅野 平男 浅野 森男 生亀 功 石川 勝夫 伊藤 公男 大石 隆一 大内 一正 奥村 信良 木村 智明
昭31	熊谷 正俊 今野 仁 佐々木 寛 長井 弘策 松谷 嘉男 森谷 文彦
昭32	相澤 賢郎 遠藤 康光 大久保 通 木戸 秀彦 佐々木勝也 佐藤 公哉 佐藤 満行 下屋 勝 高梨 利通 高橋清七郎
昭32	竹谷 靖夫 長沼 三郎 沼倉 和雄 野田 利美 原 清三 渡辺 光夫 松田 隆輝 門間 俊二
昭33	大友 正行 大山 隆志 今野 聡 佐々木光一路 佐藤 厚 菅原 富男 鈴木 節夫 鈴木 将夫 高橋 俊裕 寺澤壮一郎
昭33	成田 良元 野村 高義 早坂 英郎 藤本 幸昭 三浦 義明 森谷 拓夫 山本 道也 結城 睦夫 渡邊 紘也
昭34	青沼 行雄 石井 茂孝 後藤 孝 斎藤 京一 穴戸 志智 都築 光彦 宮野 貞司 村上 金吾
昭35	阿部 信雄 伊藤 勝利 岩崎 光任 宇佐美 潔 内田 将夫 梅沢 和男 及川 洋 大沼 直紀 黒岩 弘一 今野 正弘
昭35	佐々木恭二 佐々木武磨 佐々木庸二 渋谷 道男 中鉢 育玄 細谷 俊夫 吉永 英彦 我妻 一美
昭36	阿部 浩 大曾根秀憲 大益 弘 菅野 俊次 児玉 隆行 穴戸 俊一 菅泉 徹 鈴木 幹 高橋 幸裕 長井 清
昭36	枅澤 敬 松崎 仁也 水上 武彦 吉田 二郎 我妻幾久寿
昭37	阿部 孝 相澤 利重 佐々木 敦 渋谷 孝 田口 正志 高橋 馨 高橋 国夫 千坂 孝夫 中鉢 泰平 本田美喜夫
昭38	阿部 重人 大曾根 昇 今野 丈夫 佐々木恭次 残間 忠夫 菅原 清春 菅野 英俊 高橋 勝也 高橋 忠世 二郷 文俊
昭38	宮本 信夫 渡辺 将郎
昭39	石堂 達夫 上野 正司 笹原 誠一 菅原 静
昭40	浅野 仁也 工藤 邦保 佐藤 啓三 庄司 昭也 武田 俊夫
昭41	遠藤 賢 菅野 静義 菊地 務 今野 忠雄 佐々木宗實 渋谷 量 高橋 秀之 藤井 欣三 八木 正志 渡辺 幸之
昭42	佐々木昭美 菅井 晋三 浜田 泉
昭43	佐々木 博
昭44	木村 久一
昭45	荒川 忠一 飯田 功 内田 和博 小畑 伸一 佐々木 質 佐藤 實 藤井 茂樹
昭46	加藤 伸 笠間 邦彦 高橋 淳
昭48	岡崎 俊哉
昭50	早坂 明彦
昭51	姉園 公也 早坂 時男 道家 篤夫
昭53	浅野 正則
昭54	村井 勇二
昭55	亀井 明 澁谷 孝男 鈴木 健之
昭57	内海 雅彦
昭59	牛渡 克之
昭62	相澤 政宏
昭63	栗村 光
平8	千葉 俊也 奈須野宗隆

# 会員通信

●故郷を離れて六十六年、栗駒山や舟形山それに葉来山の眺めが今でも目にうかがふ。又、王城寺原の旧陸軍演習場から重機関銃の銃声が古川まで響いているの思い出されます。(S16 福島光男 元気にしています。御盛を祈ります)

●今年度の同窓会長の高橋俊裕氏の高校の時の校長は小坪洋先生との事。小生仙台にいたとき(東北大・医・第一内科)は、隣に近くお住いで、奥様も良く存じあげていたので、時折伺いました。元氣な方でしたね。(S22 愛野記念病院 松本慶蔵)

●同じ小生田出身で古高四十年後輩の岩崎隆優氏が、私の在籍したホンダに勤務し、且つ広い東京で私の住居の直ぐ傍に居を構える偶然から、親しくさせて頂いて貰っています。古高生の人の縁の輪は、かくも奇なるものと思う次第。同君は新年一月よりウクライナ駐在で家族共に移住予定でチョッピリ淋しくなります。ご健闘を祈るのみ。(S24 齋藤 馨)

●加齢相応に老化症状が出るのは止むを得ないようです。仕事と家事に追われる毎日ですが、何とか凌いでおります。(仕事といつても見返りのないタダ働きですが、気持が若返ります。)(S24 三浦澄彦)

●来春(十九年)は久しぶりに本がです。(S25 袖井次郎)

●古希とは云え、地方の病院は医者不足いまだに現役です。(S29 日鉦記念病院 金原章郎)

●二年ほど前に病気がはしたのですが、いまはそれなりに山やゴルフ、卓球など以前と同じようにやれる幸せを感じています。自然の流れにまかせて…。これからは小さな楽しみでも大きな喜びを得るように心がけてみたいものです。(S29 三浦憲一)

●「究之弥深」という言葉に、初めて出会いかみ締めています。定年で勉強を始めた囲碁は、ようやく三段になりました。今、ハガキで碁を打つ郵便碁(全国の会員七〇〇人)の会報(A4版12頁、年4回発行)の編集長。NHKのニュースを四十五年間担当した経験

が生きています。好きな時間に好きなことができる喜びを感じています。(S30 木村哲彌)

●「蜚言」楽しく拝読いたして居ります。母校女子生徒四割になる由、隔世の感を覚える所です。(S30 児玉律実)

●昨年は年の初めからモーツァルトの「レクイエム」の練習を殆ど毎日くり返し、年末にやと演奏会に参加できました。三月には、リコーダーで合唱に参加したので、一年間音楽漬けでした。(S30 高橋 広)

●昭和三十一年アメリカの銀行、チェース・マンハッタン銀行に入行、四十年間勤務し平成十七年九月定年退職し現在に至る。モルガン銀行とチェース・マンハッタン銀行が合併しモルガン・チェース銀行と変更になりました。同級会、チェース銀行OBの旅行の幹事もしています。古高時代が懐かしく思い出されます。来年(十九年)の同窓会には出席したいと思っています。(S31 浅野 清)

●今年(十八年)も七月に墓参りに鳴子に帰って来ましたが、鳴子中が廃校に成ったので母校の恩師と三十数年振りで会食をして昔話に花を咲かせて来ました。生きて居る間に出来る事は実行して置こうと云う考えからです。齢の為せる行動です。(S35 内田将夫)

●事務局の皆様、何時も有難うございます。仕事の区切りがついたらと言いなから三年目の正月も中国で迎えそうです。「蜚言」は楽しみにしておりますので、その都度送っております。これからもどうぞよろしく願います。これからもうぞよろしく願います。(S36 大曾根秀憲)

●一年を振り返り野球漬けの日々でした。全国大会で秋田に行き、関東大会で群馬・茨城等に遠征し充実した一年でした。身体の動く限り今の生活を続けたいと考えております。健康維持の為に。(S37 穴戸照男)

●十二月十七日習志野文化ホールにて「第九」鑑賞。パリトンは成田博之氏(古高卒)。最前列でしたので、声はすれど姿は見えず、カーテンコールではしっかり確認。風格大。ドイツ語わかりました。第三十八号、立派。ご苦勞に感謝。小生の拙文は「余世の過ごし方」の一端のつもりです。(S37 坂孝夫)

●二〇〇六年六月にネットワンシステムズ(株)を退社しました。色々考えた末、新しい会社を二〇〇七年一月に立ち上げます。五十八歳ですが、「イノベート日本」に貢献したいと思えます。皆様のご支援をお願いします。(S42 ビジネスインテグレーション システムズ(株) 佐々木昭美)

●去年は合同新年会に久しぶりに参加して郷土の先輩とお会いでき楽しいひと時でした。後輩諸君の見事な独唱、演奏に、大いに楽しみました。また出席しようと思っています。(S52 日本放送協会 コンプライアンス 平野幸三)

心よりご冥福をお祈りいたします

佐々木 喬氏  
(昭12年卒) 在京同窓会顧問  
平成19年4月21日

佐々木 一司氏  
(昭22年卒)  
平成18年11月30日

松谷 睦男氏  
(昭37年卒)  
平成16年6月

## 編集後記

・在仙同窓会も会報を発行したとのこと。同窓会活動において定期発行される会報は会員とのコミュニケーション・シジョン上、大変重要です。在仙と切磋琢磨しながら、よりよい会報を作っていきたいと思っております。(亀井)

・七面に年会費の納入名簿を掲載させていただきました。ご納入いただきました方々には厚くお礼申し上げます。なお、十八年度の振替用紙で本年四月一日以降に振り込まれた方は、翌十九年度の会費として会計処理させていただきます。この名簿に記載はございませんのでご了承下さい。会報送達者に対する納付率は約42%でした。皆様には、今後とも同窓会維持運営のためご協力の程よろしくお願い申し上げます。(曾根)

情報処理のエキスパート 完成図書・デジタル化総合サポート 専任スタッフ・有資格

**電子納品作成支援**  
おまかせください!

導入から成果品まで専任スタッフがきめ細かく対応しバックアップいたします。

CALS/EC-インストラクター	4名
電子化ファイリング	5名
ファイリングデザイナー	2名
文書情報管理士	5名

代表取締役会長 **早坂清吉** (昭和29年卒)

株式会社 **ケーヨー** <http://www.keyo.co.jp> E-mail: info@keyo.co.jp  
本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 4-1-6  
☎03-3242-0191 FAX 03-3242-0167

税理士 **青沼康男**  
不動産鑑定士  
(昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805-0014  
TEL 03-3452-2004  
FAX 03-5476-8006

あなたの夢を実現するためのお手伝い

中鉢 泰平(昭和37年卒)

- 宮城県玉造町鳴子町川波村黒崎出身、古川高等学校(野球部)卒業後、京都の大学で海外事情研究所属
- 大学卒業後東急航空(現東急観光)時代から国内・国際社会を舞台に現在まで世界旅行業界歴40年間
- 特にすぐれた世界の教育・医療・福祉をふくむ各業界の専門分野の視察・研修を手がけ情報を提供し、みずから添乗も行ってきた。世界文化遺産からその国々の観光から体験学習などの国際交流、学会など六か国語を駆使し、あらゆる国々をめくり、添乗(ツアーコンダクター)回数300回を超える
- 長年の旅の出会いにより、日本全国に親愛な顧客を持ち、世界各国に多くの友人知人を持っている
- 旅を通じ国内世界を問わず、人との出会いを大切に思い、現会社を設立し、代表取締役社長を勤める
- 日本イタリア連絡協議会理事・在京鳴子町人会代表・在京宮城ふるさと協議会常任理事・みやぎの夢クラブ常任理事・(財)日本さくらの会会員やふるさと小・中高同窓会幹事及び大学同窓会役員を務める

株式会社 **インターナショナルヒューマン** トラベル  
〒164-0001 東京都中野区中野2-29-15-204  
TEL 03-5385-3693 FAX 03-5385-3694